

## 進捗状況の概要

### 新たな地域社会を創造する3C人材の育成

#### —アクティブ・ラーニングの体系化と学修到達度可視化システムの開発—

#### 1. 学びの質の転換を促すアクティブ・ラーニングの深化と拡充

##### ●アクティブ・ラーニング科目の拡充

本学では、グループワークやフィールドワーク、あるいは異なる学部の教員・学外のゲストスピーカーによるオムニバスとなっている授業をアクティブ・ラーニング科目と指定し、事業開始前(平成25年度)には19科目だったものから、平成26年度32科目、平成27年度56科目にまで拡充した。さらに、平成27年度にはアクティブ・ラーニング科目である「とちぎ終章学総論」を1年次の必修科目とし、基盤教育(1年次)におけるアクティブ・ラーニング科目受講者100%を実現している。

##### ●ラーニング・コモンズの活用

本学では、ラーニング・コモンズを拠点として、アクティブ・ラーニングの推進を行ってきた。平成27年度に開講されたアクティブ・ラーニング科目の約4割がラーニング・コモンズを活用している。ラーニング・コモンズには専任スタッフ(特任教員、事務補佐員、学生スタッフ)を配置し、学生の学習相談、グループワークの環境整備、学修支援担当教員のサポートを迅速に受けられるような体制を構築した。

##### ●『ALティップス集』の作成

平成27年度は、アクティブ・ラーニングに関するティップスを冊子『大学における授業改善のためのヒント集—Udai Collection 2015—』にまとめ、全教員に配布した。内容は、アクティブ・ラーニング科目を中心とする教育実践、FD(Udai教育セミナー)報告、その他一般的なアクティブ・ラーニングに関するティップスをまとめたものとなっている。

#### 2. FDの推進—能動的学修を実現する教員集団の一層の教授能力・資質の向上—

##### ●セミナーの開催

平成27年度には学内で多様な授業実践の成果と課題を共有することを目的としたFD(「Udai教育セミナー」)を11回開催した。そのうち2回は学内競争資金である「教育プログラム支援経費」(アクティブ・ラーニング開発支援)に採択された教員による公開授業・公開検討会となっている。

#### 3. 個々の授業科目を越えた大学教育のカリキュラム・マネジメントの確立

##### ●アクティブ・ラーニング科目を組み込んだカリキュラム編成

本学では、これまでテーマ別教養教育を導入し、基盤教育科目の再編成を実施してきた。平成27年度は「地(知)の拠点整備事業」と連携し、必修のアクティブ・ラーニング科目「とちぎ終章学総論」を核として新たに「高齢社会を生きる」という現代社会の課題と向き合う学際的テーマを設定し、1年次から領域横断的に学修に取り組めるよう体系化を行った。

#### 4. 学びの質を保証する学修到達度可視化システムの開発

##### ●「行動的知性」の指標化

本学ではこれまで「教育プログラム・シラバス」、「教科シラバス」、「確認マトリックス」を明示し、教育課程のなかで、個々の授業ではどのような知識・能力の育成が行われているのか、全体を意識しながら学修できる「到達目標明示・自己実現型学修システム」を構築してきた。

それに加え、「知」と「行動力」を結合した汎用的能力である「行動的知性」の学修到達度可視化システムの開発を行っている。本学では、主体的に挑戦し(Challenge)、自らを変え(Change)、社会に貢献(Contribution)する3C人材の育成を行ってきた。平成27年度は、この「3C」を基盤に、9つの汎用的能力を本学が育成する「行動的知性」とし、その構成要素の指標化に取り組んだ。また、その到達度を可視化するシステム(「3C到達度チェックシート」)の導入に向けて検討を開始している。「3C到達度チェックシート」は、これまで教員の主観にゆだねられていた「行動的知性」獲得を学修成果として可視化するシステムであり、学生自身による学修成果の振り返り及び今後の学修計画を支援するシステムである。